

## 千葉県教育委員会主催 「令和元年度 薬物乱用防止教育研修会」 参加報告

千葉県学校薬剤師会  
常任委員 宮代 和幸

令和元年8月22日(木)、千葉県文化会館大ホールにて標記研修会が開催され、市町村教育委員会関係の方々や教育事務所の方々、ほか多数の先生方が出席された。

薬物乱用防止指導教育に関する指導の実践事例として、まず初めに千葉市花園中学校 教諭の小座間 瞳先生より報告があった。

小座間先生からの報告は、後を絶たない著名人の薬物使用や危険ドラッグ使用者による事件・事故を例に挙げ、花園中学校では9年前より専門の講師を招いて薬物乱用防止教室を開催している。生徒に薬物の害や恐ろしさを知らせるために正しい知識や基本的事項の認識を深めさせ、健全な態度や正しい判断力を養い、誘惑に絶対負けない心構えを身につけさせたいと懸命に取り組んでおられる。薬物乱用が低年齢化しているこの問題に対して、早期学習として今年度より中学2年生へ薬物乱用防止教室を実施した。東京経営短期大学特任准教授の上條理恵先生を講師として、薬物の害・薬物の誘惑・SNSによるやりとり・**幸せになる方法(?)**について講義いただいたとの報告であった。また、図書室と千葉県学校薬剤師会とのタイアップによる薬物乱用防止の強化週間として、図書室前に資料の展示や薬物に関する書籍コーナーを設けた。

続いて、千葉県白井高等学校 教頭の和田 匡史先生よりライオンズクラブと連携した薬物乱用防止教室の実施についての報告があった。

和田先生の報告は、高校で朝読書を取り入れており、10年以上続けている。この活動の成果もあって生徒が落ちついてきたとのこと。またその他に部活動を通じて中学校や高齢者施設との交流を行っており、今年度はライオンズクラブ会員で歌手の高城 靖雄氏から薬物乱用の危険性を高校生の段階で身に付けておくことの大切さのお話があったと報告された。

続いて、千葉県警の國井 勲徳警部より講演とDVDによる説明された。

DVDは、解熱剤として友人からもらった薬が覚醒剤とは知らずに服用してしまい、次第にその使用頻度が増し、中毒状態に陥る。その後、先輩からの度重なる誘いを断り切れず、ついには大麻を使用してしまうという内容であった。

続いて、千葉県健康福祉部薬務課麻薬指導班の長谷川 貴志氏より薬物乱用の状況及び行政の対応についての説明があった。薬物の使用者はここ7年間横ばいではあるが、近年は大麻の使用者が増えているとの事であった。

最後に、一般社団法人千葉ダルク 代表理事の白川 雄一郎氏よりご自身の薬物使用における体験談をお話いただいた。

白川氏は中学2年生から高等学校3年生までシンナーを吸引し、その後浪人中は勉強に集中していたため薬物を手にする事はなかったが、大学に入ってから大麻を使用してしまう。その後も就職して半年経った頃から覚醒剤を始め、離婚・借金・退職に及び39歳で生活がなり立たなくなる。その後薬物を辞める決意をし、ダルクに入所。現在に至っている。

各学校で行われている薬物乱用防止の実際を知る事ができ大変参考になる研修会でした。